



講師コラム「エネルギーの明日」

エネルギー・環境問題の専門家に、毎回、様々な角度からエネルギーの視野を広げるお話を伺います。

Vol.13 消費行動が 社会を変える！



消費生活アドバイザー
石窪 奈穂美 氏

私たちは毎日何らかのモノを消費して生きていますが、エネルギーもまた私たちが消費するモノのひとつです。エネルギーであれ、その他の製品・サービスであれ、どう消費行動をするかは社会に大きな影響を与えます。今回は消費生活アドバイザーである石窪奈穂美氏に、より良い社会を実現するために消費者としてどう行動すればいいかを伺いました。



家庭部門で増えているエネルギー消費

日本のエネルギー消費は1973～2017年で1.2倍になっていますが、産業部門が0.9倍と減少しているのに対し、家庭部門が2.0倍、業務部門が2.1倍、運輸部門が1.7倍となっています。つまり、家庭や日常生活に関係がある部門での消費が増えているということです。

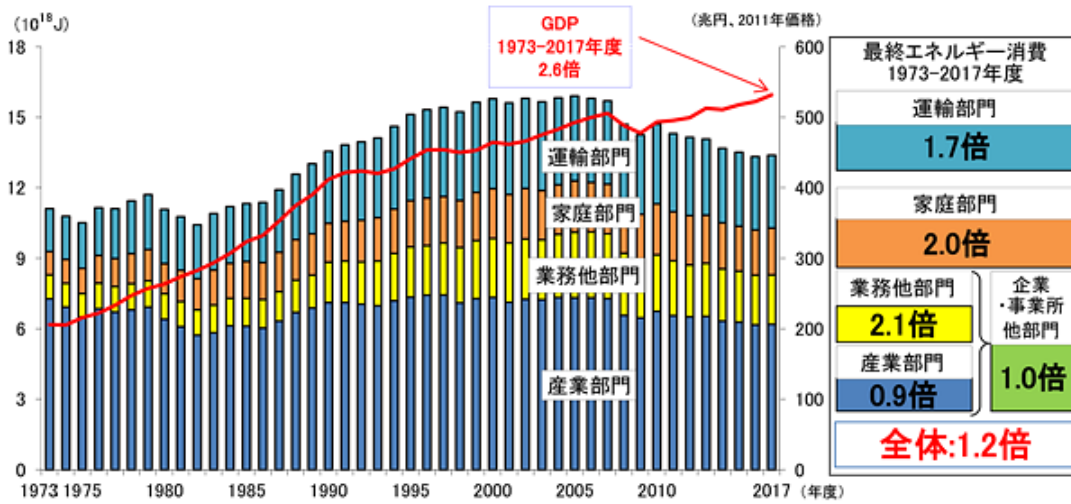
家庭部門で消費が増えた理由は私たちの暮らしが大きく変化したからです。各家庭でたくさんの家電製品を保有するようになり、テレビやエアコンは一家に1台ではなく、一部屋に1台になりつつあります。新しい家電製品も次々に発売され、パソコンや携帯電話・スマートフォンなどのデジタル機器、温水洗浄便座、衣類乾燥機など便利な家電を所有するようになりました。しかも家電製品は一つ一つは省エネ化していますが、大型化しています。

世帯数が増えたことも影響しています。核家族やひとり暮らしであっても冷蔵庫や洗濯機、テレビなどの家電製品をひとり所有しているので、世帯数が増えるとエネルギー消費も増えることになるのです。こうした暮らしの変化は便利さや豊かさを追求した結果だといえます。

先進国と同じように便利な暮らしを新興国や途上国でも追求するとどうなるでしょうか。世界中の人が日本人と同じ生活をする、地球2.8個分が必要だといわれています。これからは自分の国のことだけでなく、他国と協力して持続可能な社会を築いていくことが求められています。

地球温暖化の原因となっている温室効果ガスの排出は、人間の活動による影響の可能性が極めて高いという報告もあります。その多くが化石燃料を使ったエネルギー消費です。地球環境を守るためにも、私たち一人ひとりの行動が問われているのです。

最終エネルギー消費と実質GDPの推移



(注1) J(ジュール)=エネルギーの大きさを示す指標の一つで、1MJ=0.0258×10⁻³原油換算kl。

(注2) 「総合エネルギー統計」は、1990年度以降の数値について算出方法が変更されている。

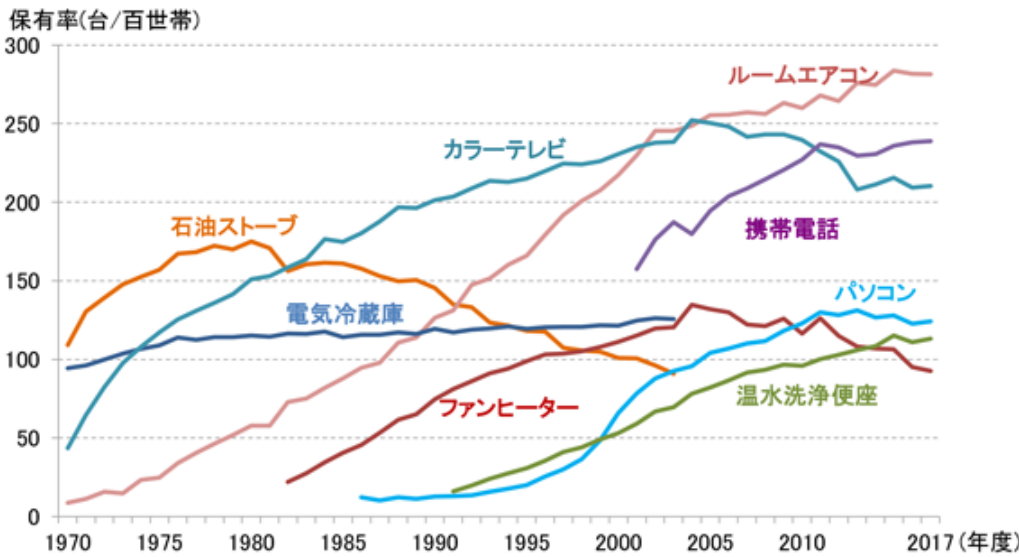
(注3) 産業部門は農林水産鉱建設業と製造業の合計。

(注4) 1993年度以前のGDPは日本エネルギー経済研究所推計。

出典：資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」、内閣府「国民経済計算」、
日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」を基に作成

出典：資源エネルギー庁「平成30年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書2019)」より作成

家庭用エネルギー消費機器の保有状況



(注) カラーテレビのうち、ブラウン管テレビは2012年度調査で終了。

出典：内閣府「消費動向調査年報」を基に作成

出典：資源エネルギー庁「平成30年度エネルギーに関する年次報告(エネルギー白書2019)」より作成

より良い社会のために消費者として大切なこと

では、どのような消費行動をとれば良いのでしょうか。まず「自分ごと」として考える視点が大切です。よその国のことだからと考えず、国内外で起こっている様々な問題に関心を持ち、自分のこととして考えるようにしましょう。「Think globally, Act locally」という言葉がありますが、地球規模で考えて、行動は足元から、できることから始めることが重要なのです。

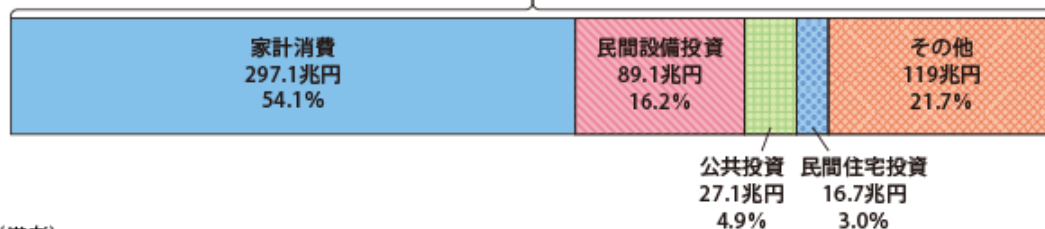
例えば「エシカル(倫理的)消費」という考え方があります。モノを購入するときに価格や品質だけでなく、環境に良いか、社会的な問題の解決に配慮しているかを選択の基準にする消費行動です。具体的には、必要なものを必要な量だけ買う、使い捨て商品ではなく長く使えるものを選ぶ、近くで生産・製造されたものを選ぶ、環境負荷や社会的不公平に影響が少ないものを選ぶといったことです。自分で選ぶのが難しい場合は、環境ラベル(エコマークや省エネラベルなど)が付いたものを目安にしたり、「グリーンコンシューマーの10原則」を参考に選ぶといいでしょう。

こうした行動を消費者がとるようになると企業や社会も変わっていきます。消費は投票行動と同じです。GDPの5割以上は家庭での消費なので、家庭消費が変わると企業や社会にも大きく影響します。最初に流れを変えるのは7%の消費者だとされています。7%の人が支持するようになると、企業もその製品を無視できなくなるからです。最初は小さい流れでも、やがて大きな流れとなって社会を変える可能性があるのです。

消費行動は必ずしも完璧を目指さなくても構いません。ベストでなくとも、ベターやグッドな選択を心掛けましょう。難しく考えて挫折してしまうより、楽しく長く続けることが大切です。

名目国内総生産（GDP）に占める家計消費等の割合（2018年）

名目国内総生産（GDP）548.9兆円



(備考)

1. 内閣府「国民経済計算」により作成。2018年10-12月期2次速報値(2019年3月8日公表)。
2. 「その他」は、対家計民間非営利団体最終消費支出、政府最終消費支出、在庫変動及び純輸出の合計。
3. 四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

出典：消費者庁「令和元年版消費者白書」より作成

グリーンコンシューマーの10原則

- 1 必要なものを必要なだけ買う
- 2 使い捨て商品ではなく、長く使えるものを選ぶ
- 3 包装はないものを最優先し、次に最小限のもの、容器は再使用できるものを選ぶ
- 4 作るとき、買うとき、捨てるとき、資源とエネルギー消費の少ないものを選ぶ
- 5 化学物質による環境汚染と健康への影響の少ないものを選ぶ
- 6 自然と生物多様性をそこなわないものを選ぶ
- 7 近くで生産・製造されたものを選ぶ
- 8 作る人に公正な分配が保証されるものを選ぶ
- 9 リサイクルされたもの、リサイクルシステムのあるものを選ぶ
- 10 環境問題に熱心に取り組み、環境情報を公開しているメーカーや店を選ぶ

出典：グリーンコンシューマーになる買い物ガイド（小学館）より



エネルギーにまつわる現実を知ってほしい

世の中で起こっていることを「自分ごと」として考えられるようになると、エネルギーについても興味がわくと思います。今はエネルギーのことを知ろうとする人が少ないと感じています。

例えば日本のエネルギー自給率は9.6%（2017年）と食料自給率（37%）より更に低く、資源のほとんどを輸入に頼っていますが、毎日電気や石油などが不自由なく使えるので多くの人は意識していません。また、私たちが払う電気料金にはFIT制度※による再生可能エネルギー普及のための賦課金がプラスされ、年々その額は上がっています。非化石電源であり、自給率を高めるために再生可能エネルギーを増やすことは大切ですが、私たちが負担してる賦課金の金額を知らない人や、払っていることさえ知らない人もいます。（電気料金の明細にはきちんと記載されています）

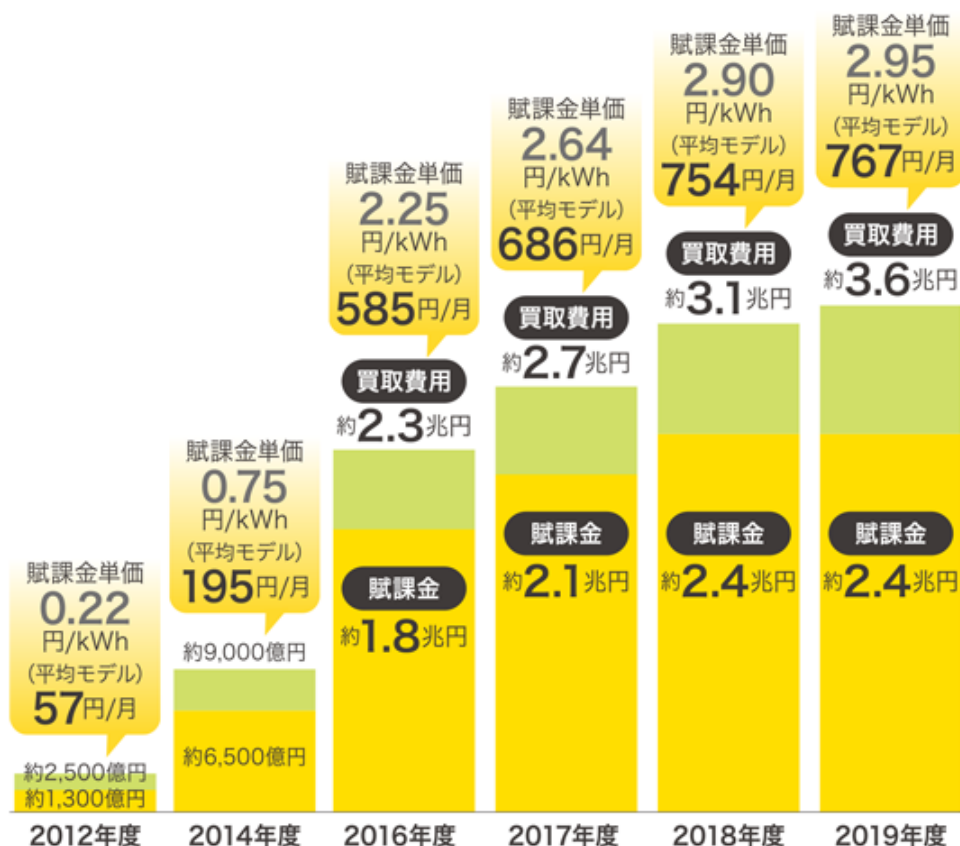
地政学的なリスクもあります。2019年6月にホルムズ海峡で日本のタンカーが襲撃される事件がありましたが、自給率の低い日本ではホルムズ海峡など政情が不安定な地域を通過して原油を運んでいます。とても苦勞して資源を運んでいることを消費者も理解すべきです。

エネルギーの現実が知られていないのは、単発の事件やできごとはニュースなどで知っていても、広い視野で全体を捉えられていないからだだと思います。私たちが今使っているエネルギー資源は有限なもので、日本のように資源が少ない島国では自前のエ

エネルギーを増やしていくことがとても重要です。自分たちが使うエネルギーがどこから来て、どうやって届けられているのか、もっと「自分ごと」として考えてほしいと思います。

※再生可能エネルギーの固定価格買取制度。FITはFeed-in Tariffの略。

固定価格買取制度導入後の再生可能エネルギー賦課金の推移



出典：資源エネルギー庁「日本のエネルギー 2018」より

自分がどう生活したいかをイメージする

エシカル消費といった考え方はエネルギー分野だけでなく、あらゆる消費の分野で大切な考え方です。こうした広い視野を持ち、賢い消費者になるためには、子どもの頃からの教育が重要になります。モノを大切に作る心や「ニーズ」と「ウォンツ」について考えたり、世界と自分とのつながりについて学んだり、まさに今の学校教育でいう「生きる力」を身につけていくことです。加えて人と議論したり、実践したりすることで自分のものとなっていきます。



消費は自由なので、どういう消費行動をとるかはその人に委ねられています。そこで重要なことは「自分がどういう生活を送りたいか」を考えることです。本当はそれほど必要ではないのに人が持っているからという理由で買っていないですか。夜はどの部屋も昼間のように明るくしなければいけないのでしょうか。自分がどういう生活をしたいのかイメージすることで、本当に必要なものが見えてくるはずです。

私は「モノを買うことは自分を買うこと」だと思っています。消費行動には自分の価値基準がそのまま現れます。そして、自分がどう選ぶかで企業や社会が変わっていくのです。自分の行動が世界や社会とつながっていることをぜひ意識してほしいと思います。